

秋まきそらまめの栽培

栽培暦

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
作業管理	●	▲	-----				↑	↑	↑	■
	播種	定植	パオパオベたがけ				↑土寄せ・防除	↑土寄せ・防除	↑誘引	収穫

施肥例（10a当たり）

肥料名	元肥 (kg)	追肥
堆肥	3,000	
苦土石灰	120~150	
BM苦土重硝酸	40~50	
CDUたまご化成S555	100	除覆期、開花期、莢肥大期の3回に15~20kg

床土の準備・播種

水はけのよい床土を使用する。育苗ポットは9.5cm（直径）を使用。おはぐろを下に向けて播種し、覆土は種子が隠れる程度とし、深植えはしない。土の表面が乾いたらかん水をする。出来れば午前中に！（過湿は発芽不良）

定植

栽植密度はうね幅120cm 株間35cmで10a当たり2,380株定植となります。本葉3~4枚展開し、芽の大きさが約3cmの苗が適期です。定植の際は、植え穴にダイシストン粒剤を株元散布する。

定植後の管理

◇ベたがけ資材による被覆

降霜期に入る前に、パオパオなどのベたがけ資材で被覆する。北西の季節風の当たる側を若干高くして風除けする。ベたがけ資材とそらまめの接触を少なくし、ゆとりを持たせて設置する。

◇ベたがけ資材の除去

ベたがけ資材を除去する前（10~7日前）に外気に順化させる。3月中旬~下旬にベたがけ資材を除去する。

病虫害防除

ベたがけ資材除去後・開花前・開花後・莢肥大期の計4回病虫害の防除を行う。

- ・さび病、輪紋病・・・ジマンダイセン水和剤
- ・赤色斑点病・・・ロブラール水和剤
- ・アブラムシ類・・・アディオオン乳剤、スミチオン乳剤
- ・カスケード乳剤・・・マメハモグリバエ

3月～収穫期までの管理

中耕・土寄せ	雑草の抑制、倒伏防止、生育促進
水分	乾燥防止のため、うね間にかん水や敷きワラを行う。
誘引	倒伏防止、病害の発生防止、品質向上
追肥	除覆期、開花期、莢肥大期の3回、葉面散布と薬剤防除 開花期の追肥は、収量を左右するので、特に重要です！この時期に 追肥・かん水を行うと収量アップ！

収穫・収量

莢が下を向き、縫合腺が色づく頃（梅雨時期にあたります。収穫可能な日に一気に行いましょう。）収穫遅れは、品質低下につながります。収量は10a当たり1,000kg位。

